

(2) 工事の時間的コストの低減

盛土工事に大型機械を使用し、工期を短縮

静岡建設局 静岡工事事務所 小瀬戸工事

【施策の概要】

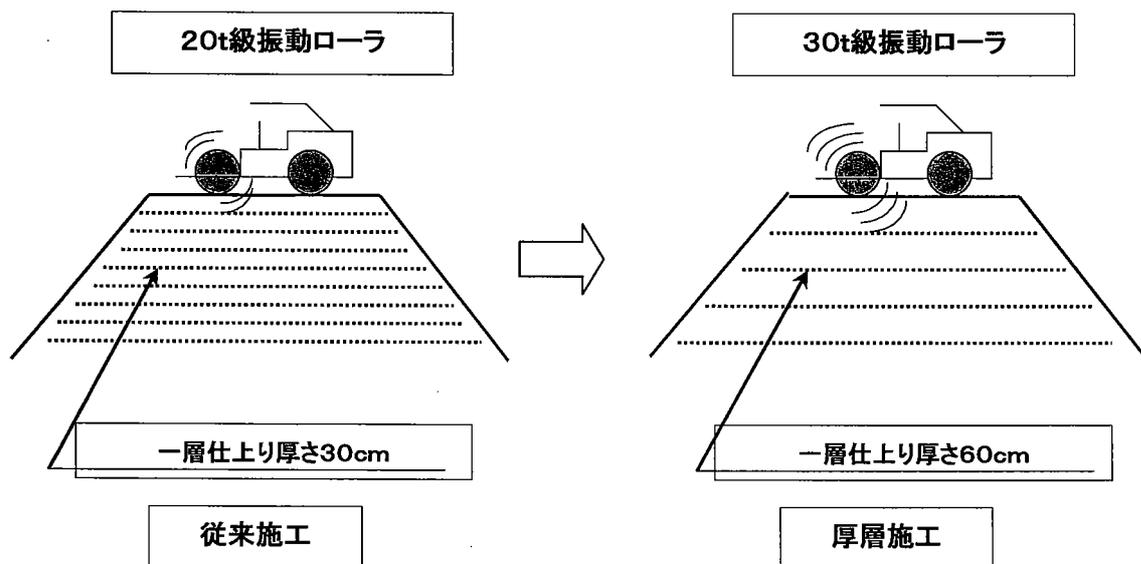
一般に盛土の施工は、運搬された土砂を振動ローラ等の転圧機械によって所定の密度になるまで締固める作業を繰り返して行っています。これまで盛土の一層当たりの施工厚さは、所定の密度（品質）を確保するため30cm以下と規定し、施工されていました。

近年の技術開発により、大型の振動ローラを使用することによって、これまで30cm以下で規定されていた盛土の施工厚を50～60cm程度に厚層化し、盛土の品質を確保しつつ、効率的な盛土施工が可能となりました。第二東名等における大規模土工工事では、大型機械を使用した盛土工事により、工事の時間やコストを低減しています。

【施策のポイント】

- ・ 盛土の敷均し、締固め作業には、従来20t級振動ローラを使用していましたが、良質な盛土材が見込める場合には30t級振動ローラ等の大型機械を使用し、一層当たりの施工厚さを従来の30cmから50～60cmに変更します。
- ・ 本工事においては、掘削、積込み、運搬、敷均し、転圧など一連の作業に大型機械を使用し、厚層化盛土を行うことにより、工事コストの25%、工期の50%短縮を図ります。

【施策の実施状況・イメージ図】



上記に加え、

関西支社 大津工事事務所 黄瀬東工事

静岡建設局 浜松工事事務所 浜松浜北SA工事等

計6件

において厚層盛土の施工を実施し、工事の時間的コストの低減を図ります。